

キャンパス通信 ippeki



01 特集/
世界を舞台に
活躍する卒業生

授業紹介

- 03 4年生
- 04 1年生/2年生
- 05 3年生/大学院
- 06 卒業生・修了生紹介
- 07 キャンパス日記
- 08 国際活動
- 09 研究室訪問
- 10 学長退任あいさつ

「大学祭(遥碧祭)でエイサーを演舞披露」

日本赤十字九州国際看護大学の学生団体「ゆいまーのわ」は、お盆に祖先の霊を送迎するために踊る沖縄の伝統芸能エイサーを演舞披露するサークルです。

見ていただいた方に元気と笑顔をプレゼント出来るように、明るく楽しく踊るのが特徴です。

「ゆいまー」とは沖縄の言葉で「協力し合う」という意味です。「ゆいまー」の「わ(輪、和)」を部員の中に、更に学生、大学、地域へと広げていきたいという願いが込められています。

第10号

2015.10▶2016.3



ひとりを看る目、その目を世界へ

 日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School



Class Introduction

日本赤十字社福岡県支部 救護基礎訓練に参加しました

今回、救護基礎訓練に参加し、傷病者役・担架搬送役・ボランティア役をそれぞれ体験しましたが、その中でも傷病者役の体験は特に印象強く残っています。

10月下旬の寒空の中、毛布を担架代わりに運ばれトリアージを受けるのはとても緊張しました。

実際の災害現場ではさらに緊迫した状況にあると思われるため、そのような状況の中でも自分の心を落ち着かせ、冷静に対応する力が求められていることを感じました。

また傷病者は、私が感じた以上の緊張、不安、衝撃など、様々な感情に苛まれると思います。

そのため、そのような傷病者の心の変化に配慮しつつ、「安心」を与えられるような対応と素早いケアが看護に求められていることを改めて実感しました。

訓練を通しての学びを今後臨床でも活かしていくと共に、どのような状況においても対応できる力を身につけられるように、日々の看護実践を頑張ります。

記:4年生 秋山 唯

傷病者の観察とトリアージ**担架や毛布を使用した傷病者の搬送**

この訓練への参加は「災害と看護」の授業の一部として企画されたものですが、赤十字の学生だからこそ体験できる貴重な機会でもあります。支部職員や防災ボランティアの指導を受けながら傷病者役、担架搬送、赤十字ボランティアを体験しました。赤十字のボランティア体験では、医療以外にもいかに多くの支援が必要なのかを知ることができ、災害発生時、様々なボランティアの力をどのようにつないでいくことが重要なのかを考えることができました。参加の機会を作っていただいた日本赤十字社福岡県支部の皆様へ感謝しつつ、卒業後、今回の学びを活かして救護活動を実践できる力を養ってほしいと願っています。

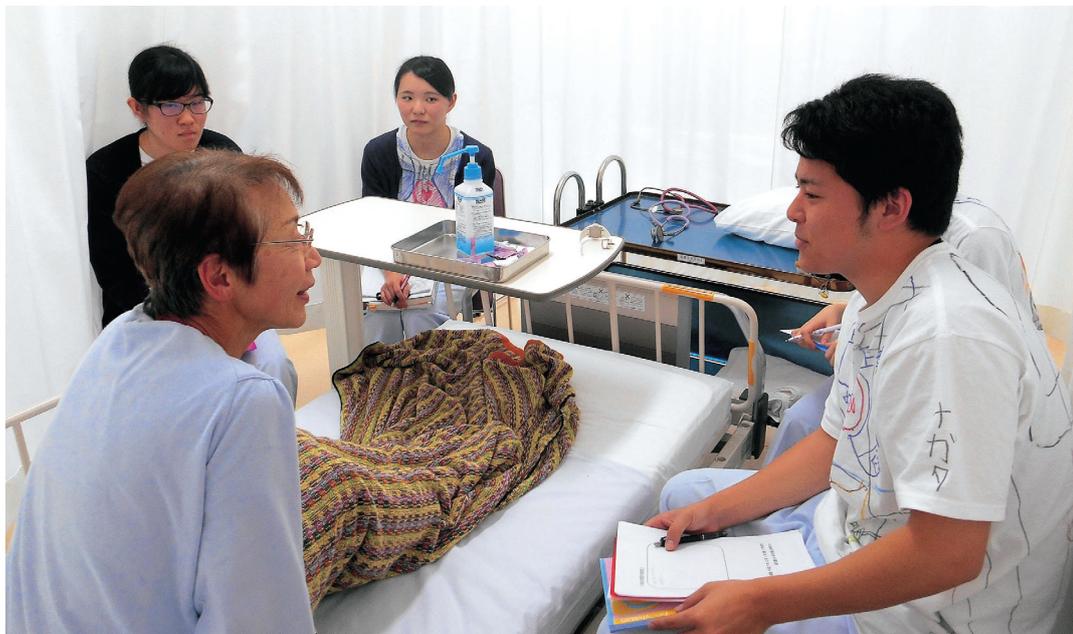
記:「災害と看護」担当 上村朋子

フィジカルアセスメント

1
年生

私たち1年生はフィジカルアセスメントの授業を通し地域の方々に模擬患者の役をやって頂き、今まで習ってきたことの実践を行いました。この演習で私は日々の復習の大切さを改めて感じました。それは模擬患者さんにご指摘いただいた内容にフィジカルアセスメントの授業で習ったことが多く含まれていたからです。私は患者さんの気持ちになりきってアセスメントを行っていたつもりでしたが、至らない点があり、効率性などに欠けるものも随所に見られました。今後は、普段の授業で得たスキルへの理解をもっと深め向上心を忘れないように復習を行いたいです。今回の演習で得たことは2年生になっても忘れず、更なる技術の向上に励んでいきたいです。

記: 1年生 長田 一希



大学祭(遥碧祭)について

2
年生

私は今回の大学祭(遥碧祭)を通して、仲間が居ることのありがたみを最も感じました。私は人前に立つことが苦手で、実行委員長として責任のある行動を取ることに不安がありました。何から始めるべきか、次に何をすべきか分からない部分もあり、正直なところ準備が間に合うかも分からない状況にまでなっていました。それでも、周りの実行委員が他の系の仕事にも積極的に協力してくれ、実行委員ではない人も手伝ってくれたことで遥碧祭を開催することが出来ました。仲間には本当に感謝しきれないです。また、今回の遥碧祭は実行委員になっていない学生を含め、自治会や先生方、地域の方々などの協力によって開催できた素晴らしい遥碧祭であったと思います。ご協力いただいた多くの方に感謝申し上げます。来年度以降の遥碧祭につきましてもご協力の程、何卒よろしく願います。

記: 2年生 第14回遥碧祭実行委員長 山本 誠也



卒業生・修了生紹介



東 優里子さん

2010年 看護学部卒業
日本赤十字九州国際看護大学 看護学部看護学科 助手(看護の基盤領域)

2010年に6期生として本学卒業後、臨床経験を経て母校に戻ってきました。臨床現場において新人教育に携わる中で看護教育に興味を抱き、本学の助手として勤務することに至りました。現在の私は学生時代とは異なる立場に戸惑いながら、学生と共に成長できる方法を模索しています。教育の難しさを実感する日々ですが、学生との関わりから学ぶことも多く、私自身も良い刺激を受けています。また、本学では所属している領域を越えて、他領域の先生方と関わる機会が多いため、幅広い視野を持って学生への教育方法を検討できる環境に感謝しています。今後は自己研鑽に励みつつ、教育者としての役割を果たせるよう邁進したいと思います。

Yuriko
Azuma



木村 きよ実さん

2014年度 大学院看護学研究科修了
日本赤十字九州国際看護大学大学院研究生

大学院では、講義や先生方と関わる中で視野が広がり、領域を超えた広い知識に触れ、理解する楽しさを感じながら充実した日々を過ごすことができました。研究では、自分が取り組む研究課題を先生方と話し合う中で捉え研究を進め、論文としてまとめることができました。その中で先生方から研究に取り組む姿勢や研究を継続することの大切さを学び、研究を続けていく意欲に繋がりました。

また、大学院でさまざまな看護領域の学生や留学生との出会いで互いに刺激しあえる経験をし、修了後も情報交換を続けています。実践や研究に向かう意欲を起す存在です。

大学院修了後、未知の世界を経験し成長の機会となると考え、以前より抱いていた短期の語学留学をしました。未熟な語学力で冒険でしたが異文化の中での貴重な体験や素敵な人々と出会いは、今後の活動にも繋がるものと感じています。

今後も大学院での学びを活かして、広い視野で看護実践に繋がる研究を続けていきたいと思っています。

Kiyomi
Kimura



本学卒業後のキャリアプラン



保健師の資格を取得すると、申請により第1種衛生管理者、さらに教育職員免許法で定められた科目を履修していれば、養護教諭2種の免許も取得可能です。

ランチョンミーティング 開催状況

	月日	テーマ
第6回	10月13日	インドネシアにおける看護教育 (講師)「インドネシア看護実践能力強化プロジェクト キャリア開発ラダー本邦研修」 研修生代表5名
第7回	10月23日	米国でまなぶということ —私の学んだ米国の大学院教育 (講師)カリフォルニア大学ロサンゼルス校UCLA メディカルセンター—摂食障害思春期専門病棟 看護師 安田真佐枝氏
第8回	11月 6日	高齢者の睡眠改善と補完代替医療 —ヒプノケアの可能性— (講師)アイルランガ大学看護学部老年看護学 担当教員 ジョニー・ハリヤント氏
第9回	11月 9日	災害における看護師のしなやかな使命感 (講師)本学学部1年生 2年生 計2名
第10回	3月 2日	大洋州・アジアにおける保健医療の課題 ～ソロモンとフィリピンのJICA研修員から学ぶ～ (講師)JICA研修員 Mr. LARUI Michael Ms. ABULENCIA Amelia



11月10日 西日本新聞
看護学生LGBTシンポ
開催事前告知

11月12日 西日本新聞
看護学生LGBTシンポ
開催について

12月24日 読売新聞
全国大学ビブリオバトル2015首都決戦
準チャンプ



大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになっ
て一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名
付けられました。

「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、
学生・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲
しいとの願いが込められています。

題字：卒業生 吉田 歩さん／福岡県・柏陵高校出身

 **日本赤十字九州国際看護大学**
Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

発行：日本赤十字九州国際看護大学 広報委員会

〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地
Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021

<http://www.jrckicn.ac.jp/>

寄付のお願い

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集して
います。寄付金には、一定の税制上の優遇措置が受
けられます。詳しくは、本学ホームページでご確認を
お願いいたします。